



久下六道線の道路拡幅に伴う市民アンケートの実施を求める請願 第 種

久下六道線（国道299号 飯能駅前交差点から飯能郵便局交差点まで）は新井市長の選挙公約により、現在7mから8mの現道幅員を16mに拡幅することを目的にしております。現在の市街地の道路網は、国道299号中山バイパスが市街地の混雑解消のため、また、飯能駅周辺を迂回することを目的に既に開通しており多くの車両が通行しております。

更に飯能中央地区行政センターから武蔵丘までバイパスも開通しており、国道299号中山バイパスと接続され利便性が大変高くなっております。

これ以上中心市街地には16mの広大な道路は必要がないと言っても過言ではありません。

拡幅の目的は、中心市街地の新たな賑わいの創出と位置づけており、令和4年度・5年年度と2か年計画で中心市街地のまちづくりビジョンの策定しておりますが、策定には市民に夢と理想を与えるだけではなく、実施に移す時には市民の後年度負担が相当あることも説明しておくことが重要であります。そして、久下六道線の拡幅に伴い、閑散となっている銀座通りや飯能駅前通りの賑わいをもっと工夫により創出することが求められています。駅周辺の道路は、飯能駅前通りが幅員15m、東飯能駅前通りが幅員11m、銀座通りが幅員8mあり、久下六道線も現道7mから8mを12mに拡幅すれば賑わいの創出が可能と考えております。

また、災害や防火による延焼遮断の防災面は、幅員12mであっても道路に面した商店や事務所、家屋の駐車場は道路から奥行きが2mから4mありますので、法的には強制力はありませんが国が示した都市計画運用指針で15m以上が望ましいとしており、こうした駐車場を含めると15mにはなりますので、幅員16mの道路は不要と考えております。15m未満にすることも現地を見て可能であり、都市計画道路16mを12m以下に縮小することも可能であります。

電線の地中化も計画されておりますが、路線全線377mを地中化にしますと地中化だけで数億円の費用を要します。地中化は災害や防災、景観面から必要な事とは思いますが路線全線を地中化については再検討を要するのではないかと思います。

既に本市は人口減少が進んでおり、名栗村と合併した平成16年4月は82,614人であった人口が、令和4年4月では78,496人と4,118人減少になっています。今後は更に過疎化の進行や少子高齢化、市街地の人口流出により人口減少が進むと考えられます。

計画通り16mの道路拡幅事業を進めれば、建物移転費用や道路用地買収費、電線地中化工事費、道路築造工事費等に数十億かかり、国からの補助金を交付されても十数億は市が起債（借金）をして十数年にかけて、市民が納めた税金で返済することになります。既に秩序ある市街地整備のため昭和62年に事業が始まって以来既に30年以上たった笠縫や双柳南部、岩沢北部、岩沢南部地区の4か所の土地区画整理事業を進めておりますが、いつ終わるか見通しが経たない状況でもあります。事業が終わるまで数十年はかかると思います。

ここで新たに広大拡幅な久下六道線道路整備事業を進めれば、いくら財源をつぎ込んでいつ終わるかわからない事業になりかねません。しかも国からの交付金を除くと事業費は市民が納めた税金であり、更に交付金の縮小や人口減少により財源が縮小することが容易に考えられます。

新井市長は市民との対話を促進するためにも再考し、地権者の意見は事業を進めるうえで大変大事なことではありますが、市民の税金を事業費に使う以上全市民の意見も求めることも必要ではないかと思えます。今一度市民が安心・安全して通行できる12m以下の歩道設置のみの道路とするように全市民に道路拡幅についてのアンケート調査（意向調査）を実施するよう請願をします。

なお、市民アンケート調査は費用をかけないために、市内134自治会にお願いをして、各戸別が良いと思えます。アンケートは自由な意思の下で行い、その結果を尊重して市長の英断をお願いしたい。

アンケートの問いは ①現状の道路のままでよい 車道7m～8m ②幅員は片側歩道（3m）の設置 道路幅員10m ③両側歩道（各2.5m）の設置 道路幅員12m ④計画通り16mに拡幅（両側歩道各4.5m）

市の方でもいろいろ検討し、市民が満足する市民アンケート調査を実施していただき、結果が公表されるまで今年度測量等に係る予算の執行は最小限にとどめていただきますよう請願いたします。

以上、地方自治法第124条の規定により請願いたします。

令和4年10月27日

請願者 飯能市仲町14-1 五十嵐 勉



紹介議員

金子敏江

紹介議員

長谷川順子

飯能市議会議長 中元 太 様